
大ピンチの哀とコナン

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大ピンチの哀とコナン

【Nコード】

N4551A

【作者名】

ユーリ

【あらすじ】

哀はある日、コナンの実家、工藤邸に泊めてもらう事になった。しかしその夜、家に侵入してきた2人組の男達にコナンと哀は誘拐されてしまう！はたして、2人の運命は・・・？

誘拐

私は名前は灰原哀。工藤君のクラスメート。

今日は工藤君が彼の家に私を泊めてくれたので、私達は一緒の部屋で仲良く添い寝をしていた。

コナン「哀、どうだ？あつたかいだろ？」

哀「うん・・・あなたの体、とてもあたたかい・・・」

コナン「たまには、甘えてもいいんだぜ、お姫様？」

哀「お、お姫様？うん、じゃあお言葉に甘えるわ、王子様・・・」
談笑しながら寝ていた時、奥の部屋から突然、物音がした。

私は怖くてふるえた。

コナン「哀、心配するな。オレが様子を見てくる。」

哀「工藤君・・・」

工藤君はドアを開けると、物音がする方へ歩いていった。
しかし、しばらくした時、彼の悲鳴が聞こえた。

コナン「う、うわあああ！！！！」

哀「え？どうしたの、工藤君！？何があつたの？」

私は彼の叫び声に我を忘れ、悲鳴が聞こえた方に行ってしまった。
そこで、私が見たのは、謎の男と、彼に抱えられている工藤君だった。

哀「く、工藤君！！」

コナン「哀、ゴメン・・・捕まっちゃった・・・」

私は驚いて、その場に立ち尽くした。
すると、男の後ろからもう1人現れた。

男A「おっと、もう1人いたのか。まあいい。」

哀「え？え？」

男B「お嬢ちゃん、オレ達と一緒に来てもらおう。」

哀「な、何ですって！？」

私はとっさに、蘭さんに教わった空手のかまえをした。

しかし、工藤君を人質に取られているのでむやみに手が出せない。
コナン「哀、ここは従った方がいい・・・」

工藤君のその言葉に、私は肩の力を抜いた。

男B「よし・・・それでいいんだ。」

男2人は縄を取り出すと、私と工藤君を縛り始めた。

あっという間に、私達はグルグル巻きにされてしまった。

そして、私達が声を出せないように、口にガムテープをペタツと貼られてしまった。

男A「さあ、この2人を運び出すぞ・・・」

男B「ああ、そうだな・・・」

私と工藤君は男達に運び出され、車の中に入れられてしまった。
そう・・・私達は、彼らに誘拐されてしまったのだった・・・。

誘拐（後書き）

コナン君と哀ちゃん、誘拐されてしまいました……。彼らの運命は
いかに！？次回「監禁」です。

監禁

私と工藤君は、突然侵入してきた男2人に誘拐されてしまった。
そして今、私達は車の中にいる。

私と工藤君は手足を縄でグルグル巻きに縛られ、口にガムテープを貼られ、後部座席に寝かされていた。

コナン・哀「んゝ、んゝ・・・」

私と工藤君は身動きがとれず、声もガムテープのせいでんゝんとしかしゃべれず、おとなしくしているしかなかった。

私達がこんなにもあつさり誘拐されてしまうなんて・・・

悲しくて悲しくて、涙が出そうだった。

おそらく、このまま彼らのアジトに連れて行かれ、親の電話番号を白状させるつもりなのだろう。

そして身代金を手に入れたその後は・・・

殺される!?

そう思うと、私と工藤君はブルブルとふるえていた。

しばらくして、私と工藤君を乗せた車は、山の中のある山小屋に着いた。

ここが彼らのアジトなのだろう。

男A「着いたぞ。2人を運び出せ。」

男B「あいよ。」

男達は私達を運び出し、小屋の中へと連れ込んだ。

そして奥にある部屋に入ると、私と工藤君を2人一緒に柱に縛り付けた。

コナン・哀「んゝ、んゝ・・・」

男A「さて、そろそろ保護者の電話番号を教えてもらおう・・・」

私と工藤君は、覚悟を決めた。

男A「・・・と言いたいところだが、実は必要ない・・・コイツがあるからな。」

そう言っていると、男は何かを取り出した。

それは・・・。

コナン・哀「!!!!」

それはなんと、工藤君の携帯電話だった。

おそらく私達を車に押し込んだ時に、持ってきたのだろう。

男B「この携帯にあるアドレス長を調べて、その人物に身代金を持つてこさせる。さて、誰にするか・・・」

私と工藤君は何もできず、ただ見ているしかなかった。

男A「ん？服部平次と黒羽快斗・・・？よし、コイツらにしよう。

夜が明けてから電話をかけるか・・・」

男達が電話をかける相手を決めた時、私と工藤君はホッとした。

服部君と黒羽君なら、きっと私達を助け出してくれる・・・。

私達は夜中に誘拐されたので、緊張をほぐして眠りについた・・・。

監禁（後書き）

さあ、いよいよクライマックスです。犯人達が平次君と快斗君に電話をかけるワケですが、あの2人なら楽勝ですよ。次回は完結の「救出」です。

救出

私と工藤君は、突然侵入してきた男2人組に誘拐されてしまった。そして今、私達は山小屋の一室に監禁されている。

私と工藤君は柱に縄でグルグル巻きに縛り付けられ、口にガムテープを貼られている状態だ。

コナン・哀「んゝ、んゝ・・・」

男達は、私達から奪った携帯電話で服部君と黒羽君に電話をかけようとしている。

私達は、相手がわかつていたので少し安心していた。

服部邸

ブルルル・・・ブルルル・・・

平次「何やねん、こんな朝早うから・・・ん？なんや、工藤・・・コナン君からやないか。」

同時刻・・・

黒羽邸

ブルルル・・・ブルルル・・・

快斗「こんな朝早くから誰だよ・・・ん？哀ちゃんからだ！」

しかし、電話に出た平次と快斗は、2人がいつもと違うようである事にすぐに気づいた。

平次「オマエ、コナン君とちゃうやろ？」

快斗「オマエ、哀ちゃんじゃないだろ？」

2人組は、開き直ったように話し始めた。

男A・男B「よくわかったな・・・」

平次「オマエ、本物のコナン君をどないした？」

快斗「オマエ、本物の哀ちゃんをどうした？」

男A「その少年ともう1人の少女なら、オレ達があずかっている・・・」

男B「その少女ともう1人の少年なら、オレ達があずかっている・・・」

・
」

その言葉に、平次と快斗は驚愕した。

平次「な、なんやて!？」

快斗「な、なんだって!？」

平次「オマエ、哀ちゃんも監禁しとるんか!？」

快斗「オマエ、コナン君も監禁してるのか!？」

男A・男B「ククク・・・そのとおり・・・2人を助けたいなら、身代金7000万用意しろ・・・」

平次「それで、2人にケガさせてないやろな？」

快斗「2人は無事か？」

男A「心配するな・・・ククク・・・」

男B「動けなくしてるだけだ・・・」

男A・男B「2時間後、米花山の山小屋に身代金を持ってこい。遅れるなよ。」

そう言うのと、男達は電話を切った。

そして、私と工藤君が監禁されている部屋に来た。

男A「おとなしくしてるようだな・・・」

男B「ボウヤ達、これが何かわかるか？」

そう言うのと、男達は上着から何かを取り出した。

コナン・哀「!!!（け、拳銃・・・!!!）」

私と工藤君は、怖くてふるえた。

男A・男B「アイツらが身代金を運んできたら、気絶させてここに閉じ込める。そして、仲良く射殺されるって計画だ・・・ククク・・・

・ハハハハハ!!!」

コナン・哀「んゝ、んゝ!!!（そ、そんなぁ……!!!）」

私達は、必死にもがいていた。

平次は、犯人からの電話のあと、どうしようか考えていた。すると、平次の探偵団バッジが鳴った。

実は、平次と快斗は青年探偵団のメンバーであり、コナン、哀も仲間だった。

そして、少年探偵団とは別の探偵団バッジを阿笠博士から受け取っていたのである。

平次「快斗やな・・・おう、オレや。」

快斗「平次、今そこに誰もいないか？」

平次「ああ、誰もおらんで。」

快斗「わかった。それじゃあ・・・ワン・・・ツー・・・スリー！！！」

その瞬間、平次の目の前に快斗が現れた。

平次「おわあ！！！」

快斗「どう？オレの出現マジック！！！」

平次「あゝ驚いた・・・」

快斗「さあ、早くコナン君と哀ちゃんを助けに行こう！！！」

平次「ああ、そうやな！！！」

男達は、私と工藤君の前に拳銃を突きつけていた。

とてもとても怖くて、私達はビクビクと体がふるえていた。

コナン・哀「んゝん、んゝん、んゝん・・・」

男A「そろそろ時間だな・・・」

男B「悪いが、死んでもらおう・・・」

ジャキ！！！！

コナン・哀「んゝ、んゝ！！！！」

私と工藤君が悲鳴をあげた、その時だった。

外から、声が聞こえてきたのは。

快斗「そこまでだ！！！！」

平次「契約違反は、犯罪やで？」

男A・男B「だ、誰だ！！！！」

快斗「黒羽快斗!!」

平次「服部平次!!」

快斗・平次「探偵だ!!!」

男A・男B「な、何!!!?」

そこに立っていた服部君と黒羽君の姿を見て、私と工藤君はホッとした。

平次「あ、そうか。もうすでに未成年者略取誘拐の罪で現行犯逮捕やったなあ!!」

快斗「誘拐は殺人に匹敵するもつとも卑劣な犯罪・・・ここで叩きのめしてやる!!」

そう言っていると、服部君が突っ込んできた。

男達は慌てて拳銃を撃とうとしたが、黒羽君のトランプ銃の方が速く、拳銃をはじかれた。

その瞬間に、服部君が竹刀を振り上げた。

男A・男B「バ、バカな・・・」

平次「チェック・メイトや!!!」

ドォーン!!!!

服部君の強烈な一撃で、男達は気絶した。

黒羽君が駆け寄り、男達に手錠をかけた。

快斗「ゲーム・オーバー・・・オマエらの負け!!!」

服部君が私達に駆け寄り、縄とガムテープをほどいてくれた。

平次「もう大丈夫やで、お2人さん!!」

私と工藤君は思わず服部君に抱きつき、泣き出してしまった。

黒羽君もほえんでいる。

平次「ほな・・・」

快斗「帰るか!」

コナン・哀「うん!」

その後、服部君の通報により、男2人組は未成年者略取誘拐、逮捕・監禁の罪で逮捕された。

この事件で私達は、たまには大人に甘えてみようという気持ちにな

った・・・。

イメージソング オープニング「I Can't stop my
love for you」(愛内里菜)

エンディング「無色」(上原あ

ずみ)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4551a/>

大ピンチの哀とコナン

2010年10月8日11時53分発行